

# 本に親しむ子を育てる学級経営の工夫

— 本との出会いを通して —

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究の全体構想	2
IV	研究の内容	3
1	学級経営と読書活動	3
(1)	学級経営について	3
(2)	読書活動について	3
(3)	中学年の読書活動	4
2	読書活動の時間の設定	5
(1)	朝の読書	6
(2)	読書の時間	6
(3)	朝の会や帰りの会	6
(4)	家庭学習	6
(5)	詩の音読	6
3	読書活動の全体構想	7
4	読書活動指導計画	8
5	本と出会わせる工夫	13
(1)	ブックトーク	13
(2)	読み聞かせ	13
(3)	ストーリーテリング	14
(4)	集団読書	14
(5)	読書集会	14
(6)	読書ノート	14
(7)	書目リスト	15
(8)	学級文庫	15
V	授業実践	16
VI	研究の成果と今後の課題	20

宜野湾市立大謝名小学校

呉屋悦子

## 本に親しむ子を育てる学級経営の工夫

— 本との出会いを通して —

宜野湾市立大謝名小学校 教諭 呉屋悦子

### I テーマ設定の理由

「本を読むことは楽しい。」その事を子どもたちに伝えたくて、朝の読書やブックトーク、読み聞かせ等を始めてから久しい。その間、全国的に本を読まない子が増えていると言われ続け、私の学級でも読まない子や読めない子、読んでも楽しめない子が目立つようになった。1993年の学校読書調査によると、学年が進むにつれて読まない子が増え、中学生や高校生ではひと月に一冊の本も読まない子が半数に達するという状況がある。

あらためて考えてみると、子ども達の周りには、テレビやファミコン、マンガ等、手軽に楽しめるものが数多くあり、各種の情報も簡単に手に入れることができる。そのうえ、学習塾やけいこごとで子ども達も忙しい。手間暇かけて読書をしようとする子が減るのは当然の成り行きなのかもしれない。こういう状況の中では浅く広く知識を得ることはできても、思考力や創造力は育ちにくいのではないかと思う。

自己教育力や情報活用能力の重視が叫ばれ、「子ども自らが学ぶ教育」への移行が強く求められている今、言葉の力を育て、思考力や創造力を高める読書は、ますます重要になってくるだろう。だからこそ、映像文化にどっぷりひたっている子ども達に、なんとかして「読書の楽しみと有用性」を伝えて、豊かな精神生活を支える源泉を持たせてやりたいと思う。とはいえ、わかりやすく手軽に楽しめる映像文化にくらべて、活字文化は、イメージを創り出し考えるという手続きが必要だと思うので、手立てもなく「大切だから読みなさい。」というだけでは、読まない子はますます増えていくだけだと推察できる。

読まない子の多くは、本の楽しさを知らなかったり、読む力がついていなかったり、イメージが描けなかったり等の問題を抱えているように思う。それが原因で読まなくなってしまうのではないか。読まないで嫌いになっていくという状況を何とか変えていきたい。

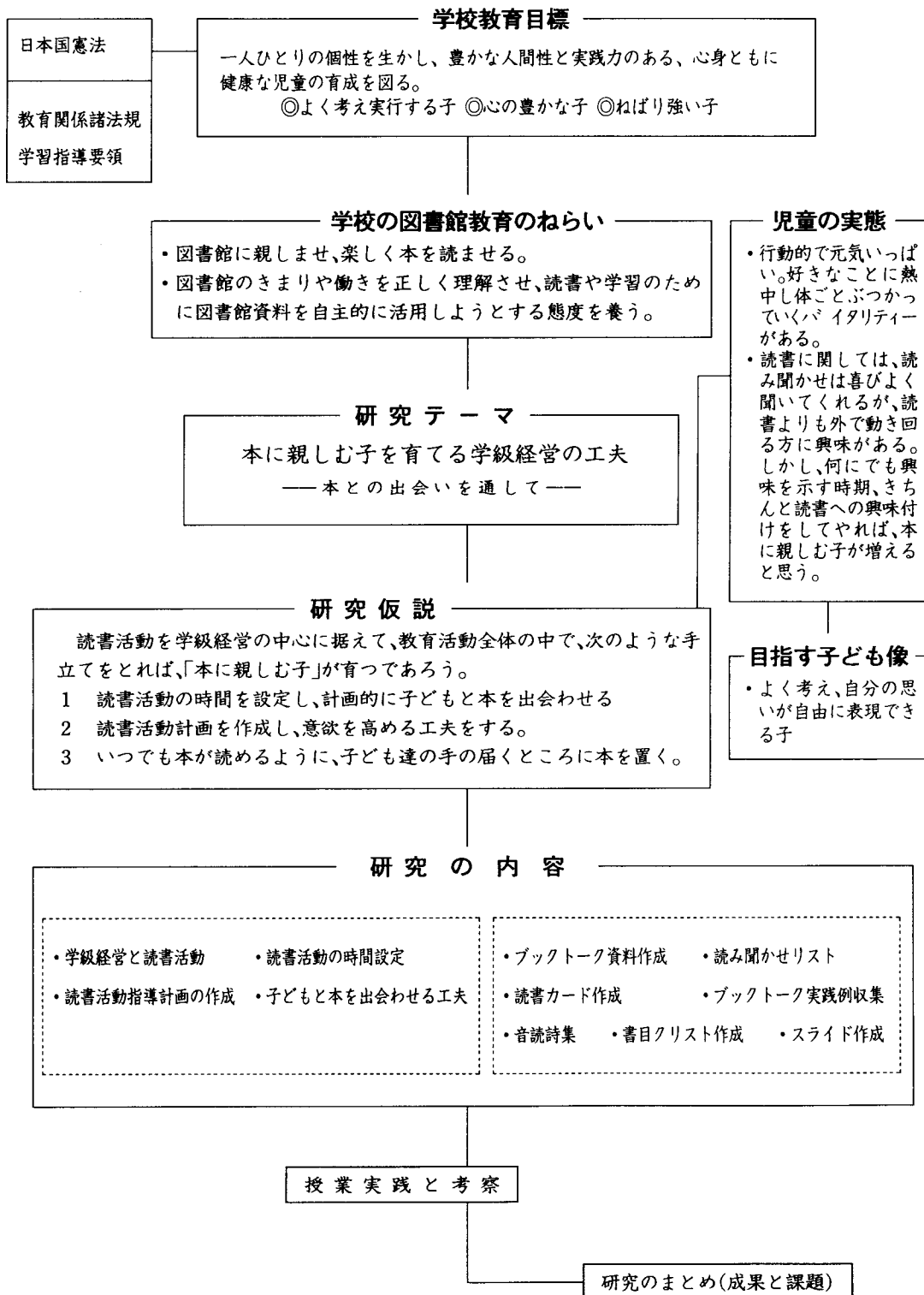
そこで、この機会に、今まで漫然とやってきた事を反省・整理し、意図的・計画的に実践できるように、読書を教育活動全体の中に位置付けるとともに、活動内容を工夫することによって、「本に親しむ子」を育てたいと思い、本テーマを設定した。

### II 研究仮説

読書活動を学級経営の中心に据えて、教育活動全体の中で、次のような手立てをとれば「本に親しむ子」が育つであろう。

- 1 読書活動の時間を設定し、計画的に子どもと本を出会わせる。
- 2 読書活動計画を作成し、意欲を高める工夫をする。
- 3 いつでも本が読めるように、子ども達の手の届くところに本を置く。

### III 研究の全体構想



## Ⅳ 研究の内容

### 1 学級経営と読書活動

#### (1) 学級経営について

教育基本法第一条（教育の目的）には「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行なわれなければならない。」とあり、教育の本質について「教育は未来に向かって無限の可能性を有する子どもが、自らの学習によって事物を知覚、観察し、その資質、能力に応じて、自らの人間性を開花成長させていく過程を実質的に担保し、充実させるために行なわれるものにほかならないのであり・・・・・・・・・・」という、判例もある。

すなわち、教育の本質は、自らの人間性を開花成長させるために、子ども自身が意欲的に学習していく事であり、教師の役目はそれを援助することにある。其の事を改めて考える機会を持つことができたのは、幸せなことであった。根源を忘れ、教え込もうとするから、あせって子ども達に悲しい思いをさせてしまうのだ。大いに反省させられた。学校における、人間性を開花成長させるための主な学習の場は学級である。したがって、学級担任は、子ども自らが自分自身を豊かに成長させていくのを援助するための学級経営をしなければならない。

学級経営については多くの人が論じているが、教育法規大辞典によると「学級の教育目標の実現をめざして、学級の教育条件を整え、学級教育の総合的で意図的な計画を立て、その効果的な運営と展開を図ることである。内容としては、①学校教育の組織化、②学級の教科指導の経営、③生活指導の経営、④学級の環境条件の整備、⑤学級事務の経営、などが主なものである。機能としては、学習集団としての学級を整備し、運営していくことと、生活集団としての学級を維持運営していくことの二つの面をもっている」とある。（菱村幸彦・下村哲夫 1994年 教育法規大辞典 79・80  
（株）エムティー出版）

つまり、豊かな人間性をもった子どもを育てるための拠り所となる学級を、学習集団として生活集団として、どのように運営していくか、具体的な方策を考え、実践していくことが学級経営なのだと思う。方策については、学級担任の創意工夫に任されている部分が大きく、個性で経営してしていくのだと思う。そこがこわいところでもあるし、やりがいがあるところだとも言える。

私自身は教職に就いてから今日まで、学級経営の中心に読書教育を据えてきた。本に親しむ子を育てたかったし、本を仲立ちにして子ども達と心をつなぎたかったからだ。本の話で充ち溢れている学級をつくる事が、私のゆめである。

#### (2) 読書活動について

従来読書指導の専門家といわれる多くの学者が、読書指導のなんたるかについての確な定義を与えている。そのなかで、坂本一郎、滑川道夫両氏の定義を要約してみると、ほぼ次のようになる。

読書指導とは、第一に読書という行為を通しての教育活動であり、読者自身の人生を充実させるための指導である。

第二に、現代の社会に適応する人間としての人格を高めることを目的とするものである。これは、競争社会に勝ち抜くことや、単に知識の集積のみを意図することではないことを意味するといえる。

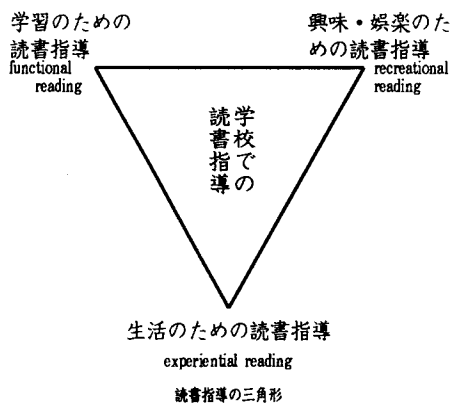
第三に読書は主体的な行為であり、あくまでもその指導は個人が自己の可能性を啓発しようとする力を援助（坂本）・助成（滑川）するものである。

第四に援助・助成は計画的に行なわれることが望ましい。

以上の四面を基本にして、そのうえにそれぞれ具体的な指導が考えられることになる  
(水野寿美子 1989年 読書指導と学級づくり 14 あゆみ出版)

読書指導の定義、第一と第二は学校教育の目的そのものだし、第三と第四は教師の支援の在り方を述べているように思う。読書によって、子ども達は自身の人格を高めるための学習の仕方を身につけるであろう。しかも、それは子ども達の中で生涯働き続ける力でなければならない。そこで、意図的・計画的な教師の援助が必要になる。

上記、読書指導と学級づくりの中から、読書指導に関わる部分を抜粋し、まとめると、次のようになる。



読書指導においては、三つの条件を持った読みが指導されなければならない。左の図のように①機能的読書(学習のための読書指導)、②娯楽的読書(興味・娯楽のための読書指導)、③経験的読書(生活のための読書指導)の三つである。

これらは、それぞれに分立して存在するものではないから、互いに関係づけながら指導していくことによって、子どもの読書は充実したものになる。

一般的には、読書＝国語という構図ができあがってしまっているような感があるが、これだけ広い内容のことを、一教科に位置付けてしまうには無理があると常々考えている。国語科での指導を基盤にして、子ども達の全生活の中で読書指導をしなければ効果は期待できないと思う。読書を学級経営の中心に据える所以である。

これまでの指導は、①の機能的読書にかたよりがちで、人格形成に大きく関わる読書でありながら、②③については、時間を設定して計画的に指導することが少なかった。三つの読みがかかわりあいながら子ども達の読みは高まっていくと思うのだが、①については時間も保障されているし計画もあるので、ここでは、主に②③のことに考えてみたい。

### (3) 中学年の読書活動

中学年は読書の転換期であると思う。

アンケートの結果は、本を読むのは好きですか？の問いに、好き（70.2%）、嫌い（2.7%）、好きでも嫌いでもない（27.2%）となっている。3年生としては好きが少ないと思うが、もう読書離れが始まっているのだと思う。指導をしないで放置しておけばますます減っていくであろう。

汗をいっぱいかいて外でエネルギーに動き回っている子ども達、好感が持てる。中学年の子も達は、セミやバッタを追い掛けたり、グッピーを捕まえたり、何にでも興味を示し、知的好奇心が旺盛であると言われている。活動的なこの時期は、当然のように静的な読書から遠ざかっていく子が増えていくのではないかと予想される。それに加えて、今まで絵本中心だった読書から文字の多い児童文学の方に移っていく時期でもあるので、かなり個人差がでてくる。この時期に適切な指導がなされなければ、読書嫌いが増えると思う。

好きでも嫌いでもないというのは、適切な指導があれば好きに変わる可能性が高いと考えている。また、直接経験をいっぱい積んだ子が、ひとたび読書の楽しさを覚えたら、より豊かな読みができるのではないかと期待もできる。

読んでいる本のジャンルを調べてみると、やはり9類が圧倒的。寺村輝夫の小さな王さまシリーズをよく読んでいる。動物の本、図工の本にも目を向け始めている。知的好奇心の旺盛なこの時期、いろいろなジャンルの本を準備して、幅広く多く読ませてやりたい。

## 2 読書活動の時間の設定

指導要領の改訂においては、児童の自主的、主体的な学習を推進することや指導方法を工夫し基礎的・基本的な内容を児童が確実に身に付けるようにすることが求められており教材・教具の適切な活用や学校図書館の機能の活用が一層重要になっている。総則においては「視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努めること」と示してある。

（菊川治・高岡浩二 平成元年 改訂小学校教育課程講座総則 109（株）ぎょうせい）

「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努める」とあるけれども「どの時間から何時間ぐらいとればいいのか」ということになると、よくわからない。上記のように学校図書館の重要性は明示されているのに、時間の設定は指導要領のどこを探しても見つからないからである。明示されていないということは教師の工夫に任せるといことなのだろうか。

「◎図書館に親しませ、楽しく本を読ませる。◎図書館のきまりや働きを正しく理解させ、読書や学習のために図書館資料を自主的に活用しようとする態度を養う。」という学校図書館教育の目標は、一人一人の教師がバラバラに取り組むだけでは達成できない。この課題は教育課程内は言うまでもなく、教育課程外の時間も含めて全教育活動に関わることなので、学校教育における全体計画のもとで計画的・組織的に行なえば、より効果的であると思うのだが、それまで待てないので、教科との関わりとこれまでの読書活動の反省を基に学級できそうなことを考えてみたい。

(1) 朝の読書・・・8時15分～8時30分

十数年来やってきたことだが、一日がスムーズにスタートでき、読書をしようとする雰囲気容易にできる。一週間の予定は次のようになる。

月	ドリルは帰りの会に回して、読書の時間にする。	木	5校時に読書の時間があるので、朝はなし。
火	全校読書の時間	金	全校読書の時間
水	児童朝会があるので、国語の時間から10分間もらう。	土	残念ながら時間がとれない。 ※活動が軌道に乗ったら宿題にしたい

※ 子ども達の生活の中で、一日に一回は読書の時間をとりたい。

※ 基本的には自由読書だが、本の紹介をしたり、読み聞かせをしたり、工夫したい。

※ その他にもこまぎれになるが、給食の準備時間やテスト終了後等、できるかぎりとしていきたい。

※ このように時間の設定をしたら、読まない子の問題はある程度解消できると思う。読めない子は自由読書の時に個別指導をしていきたい。

(2) 読書の時間・・・毎週木曜日の5校時（図書室利用のできる時間）

この時間をどこからとるかが問題なのだが、学習指導要領（国語）の「第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」の5に、「各学年の内容のBのうち、読むことの指導については、日常生活において児童が読書活動を活発に行なうことを促すように配慮するとともに、他の教科における読書についての指導や学校図書館における指導との関連を考えて行なうこと。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く偏りがないように配慮して選定すること。」とある。読書に関する3学年の目標は「いろいろな読み物を読もうとする態度を育てる。」ことである。以上のことだけでは、根拠はまだまだ曖昧だが、やはり他教科との関連を考えて時間を生み出したほうがいいと思う。そこで、各教科を分析して単元と関連付けて、国語（20時間）、社会（2時間）、理科（8時間）、音楽（1時間）、道徳（1時間）、学級活動（6時間）を考え38時間を設定してみた。

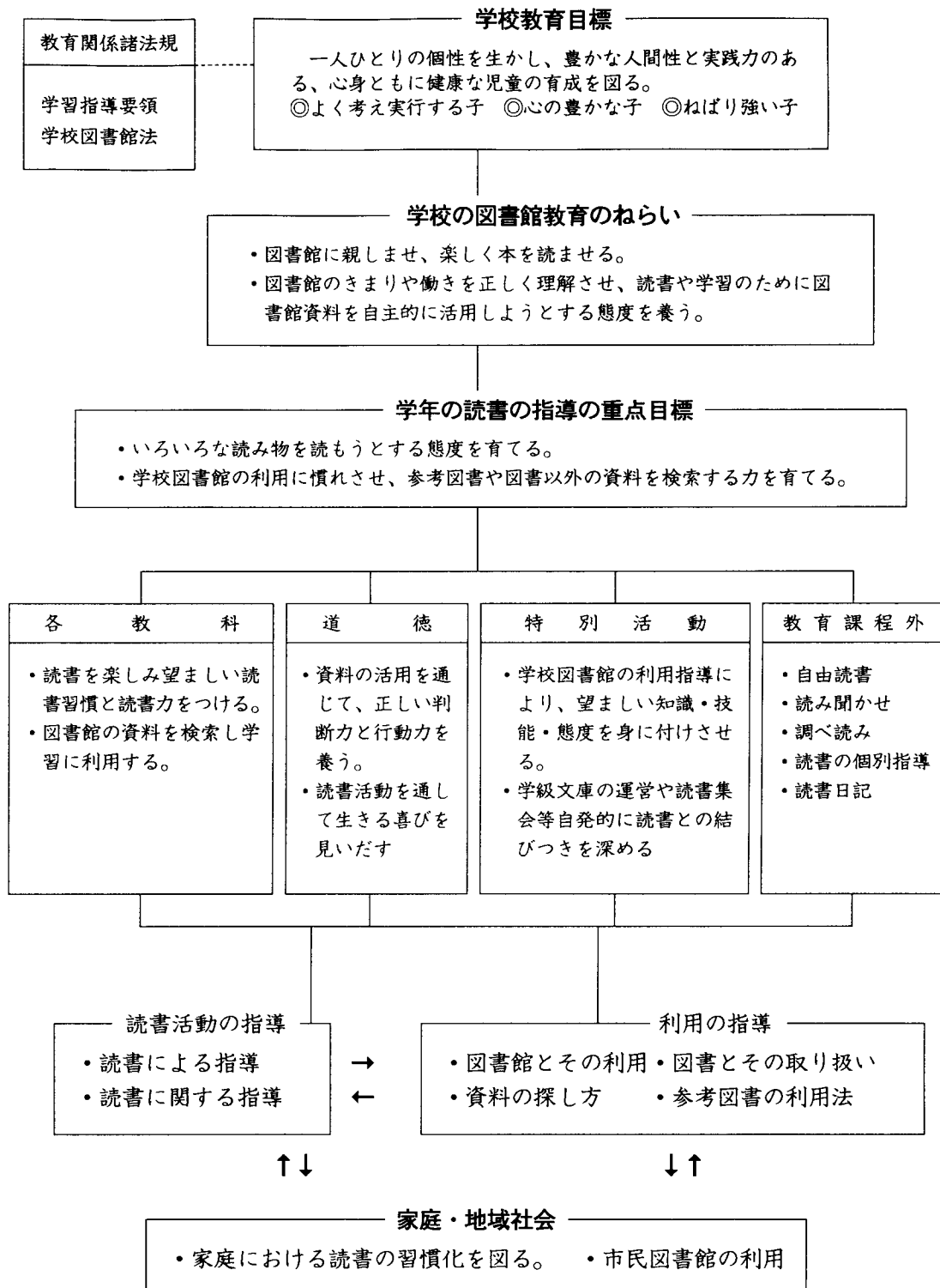
(3) 朝の会や帰りの会・・・スピーチで、本の紹介を  
してもらう。

(4) 家庭学習・・・家庭での10分間読書や読書日記  
（このことについては、あくまでも学級での指導や雰囲気づくりがうまくいった場合。）

(5) 詩の音読・・・詩集を作り、朝の会や帰りの会の時、皆で読み合う。



### 3 読書活動の全体構想



(文部省 平成6年 読書活動とその指導 36-37 大日本図書 参考)



4 読書活動指導計画 ( ☆20分 ★45分 )

月	テーマ	時間設定	方法	素材
4	☆いろいろなともだち	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくんちのかいだん</li> <li>・ぱあすけ</li> <li>・3年1組げんきクラス</li> <li>・わすれるもんか</li> <li>・九人組のがき大将</li> </ul>
	☆草花をさがそう	理 1	科学遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさいのおなか</li> <li>・春の草花</li> <li>・おおばことなかよし</li> <li>・ごっそう</li> <li>・道ばたの四季</li> </ul>
	☆図書室の利用のしかた	特 1	クイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しおりとビデオ</li> </ul>
5	★読書カードの書き方	国 1	読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十二さま</li> <li>・かもさんおとおり</li> <li>・ハガネの歯</li> <li>・100まんびきのねこ</li> </ul>
	★詩を読もう	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つけもののおもし</li> <li>・のはらうた</li> <li>・これはのみのびこ</li> <li>・ことばあそびうた</li> </ul>
	☆本の分類とさがしかた	特 1	図書クイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題</li> <li>・ビデオ</li> </ul>
	☆楽しい話（日本）を読もう	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おぼえているよ 大きな木</li> <li>・おばあさんのスプーン</li> <li>・月夜のはちどう山</li> <li>・フルーツと子ねこちゃん</li> <li>・みんなゴリラ</li> <li>・ねずみのいびき</li> </ul>

月	テ ー マ	時間設定	方 法	素 材
6	☆虫の本を読もう	理 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かいこ</li> <li>• 虫のひげ</li> <li>• だれだかわかるかい？</li> <li>• 虫のかくれんぼ</li> <li>• アゲハチョウ</li> </ul>
	☆長崎源之助さんの本を読もう	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小さな小さなキツネ</li> <li>• ゆきごんのおくりもの</li> <li>• すきです げんこつおじさん</li> <li>• よもぎばあちゃん</li> <li>• とざんでんしゃともんしろちよう</li> </ul>
	★生命について考えよう	道 1	集団読書	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 戦争をみた大きな木、もしくは、マチント</li> </ul>
	☆ちずあそび	社 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地図で遊ぶ本</li> <li>• ぼくらの地図旅行</li> <li>• しゃいか地図あそび</li> <li>• 地図をたのしもう</li> </ul>
7	☆星をたずねて	特 1	紙芝居	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たなばたシリーズ (童心社)</li> </ul>
	☆楽しい話 (外国) を読もう	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• あたまをつかった小さなおばあさん</li> <li>• こちらゆかいな窓ふき会社</li> <li>• ぼく字がかけるよ</li> <li>• 大きな大きなワニのはなし</li> <li>• 魔法のゆび</li> </ul>
	★読書新聞を書こう	国 1	図書紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一学期に読んだ中で、お友達に紹介したい本</li> </ul>

月	テ ー マ	時間設定	方 法	素 材
9	★読書発表会をしよう	特 1	個人発表	・夏休みに読んだ本
	☆「おじいちゃん・おばあちゃん」のお話を読もう	国 1	ブックトーク	・ゆっくりおじいちゃんとおばあちゃん ・おばあちゃんありがとう ・おばあちゃんの病気 ・とらねことじいちゃん ・おばあさんだいすき
	☆民話を読もう（外国）	国 1	読み聞かせ	・やまいっばいのきんか ・マーリヤンとまほうのふで ・きんいろのしか ・白いりゅうと黒いりゅう ・王さまと九人のきょうだい
10	☆こん虫のからだをしらべよう	理 1	ブックトーク	・にている親子にてない親子 ・セミのおきみやげ ・足はなんぼん ・むしーくらしとかいかた ・ミツバチのふしぎ
	☆読書月間に進んで参加しよう	特 1	読書月間についてのお話	・しおり
	☆斉藤隆介さんの本を読もう	国 1	ブックトーク	・花さき山 ・ひさの星 ・三コ ・八郎 ・ペロ出しチョンマ
10	☆人のからだをしらべよう	理 1	読み聞かせ	・からだの本シリーズ ・うんことしょんべん ・動物おもしろ歯の百科①②③ ・がいこつだぞー骨と筋肉 ・目のひみつたんけん

月	テ ー マ	時間設定	方 法	素 材
	★調べてみよう	音 1	班ごとに新聞 にまとめる	・ベートーベン ・バッハ
11	★音を出してみよう	理 1	科学遊び	・音をつくろう でんわをつくろう ・小さいかがくの本 全15巻の2おと
	☆働く人の本を読もう	社 1	読み聞かせ	・魚市場 ・パンをつくる工場 ・かまぼこをつくる工場 ・野菜をつくる農家 ・できるまで・とどくまで 全四集
	★光を当てよう	理 1	読み聞かせ	・ひかりと かげの ひみつ
12	☆民話を読もう (日本)	国 1	ブックトーク	・くしゃみくしゃみ天のめぐみ ・かもとりごんべえ ・たべられたやまんば ・かしきちょうじゃ
	☆科学読み物を読もう	国 1	ブックトーク	・のうさぎにげる ・じょうずになろう なげること ・よわいかみ つよいかたち
	☆物語を楽しもう (巨人物語)	国 1	ブックトーク	・ふなひき太郎 ・山になった巨人 ・大きな石のモアイ ・友だちのほしかった大男の話+友 だちのほしかったネズミの話
1	☆あまんきみこさんの本 を読もう	国 1	ブックトーク	・ミュウのいるいえ ・かみなりさんのおとしもの ・きつねのみちは天のみち ・北風をみた子

月	テーマ	時間設定	方法	素材
1	☆子どもの書いた詩を読もう	国 1	読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽のおなら</li> <li>・子どもの詩がうまれた</li> <li>・詩のランドセル 3ねん</li> </ul>
	★明かりをつけよう	理 1	科学遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・でんちあそび</li> <li>・小さい科学の本全15巻の1でんき</li> </ul>
2	☆おにの話を読もう	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソメコとオニ</li> <li>・オニの子ブン</li> <li>・鬼のうで</li> <li>・鬼ぞろぞろ</li> <li>・節分のオニ</li> <li>・おにのあかべえ</li> </ul>
	★じしゃくにつけよう	理 1	科学遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じしゃくのふしぎ</li> <li>・砂鉄とじしゃくのなぞ</li> </ul>
	☆安房直子さんの本を読もう	国 1	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンタロウのひみつのでんわ</li> <li>・すずめのおくりもの</li> <li>・空にうかんだエレベーター</li> <li>・トランプの中の家</li> <li>・ふしぎな青いボタン</li> </ul>
	★読書について	国 1	作文を書く 文集作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書についての考え</li> <li>・読書ノート</li> </ul>
3	★紙芝居を作ろう	国 2 特 1	班ごとに紙芝居を作って発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班でつくった紙芝居</li> </ul>

※ ☆ 20分程度ブックトークや読み聞かせをして、残りは自由読書にする。  
自由読書の時個別指導をする。

★ 45分間をたっぷり使って科学遊びをしたり、集団読書をしたりする。

※ 読書の範囲を広げるために、意識的に科学読み物を多く取り上げた。理科の教材と関連づけて、単元の終わりのほうに位置付けた。(科学に親しませるためにも、教科書だけで終わりにしないで、科学読み物を楽しませたい。)

## 5 本と出会わせる工夫

教職について以来、「子ども達に本の素晴らしさを伝える」ことは、私のライフワークであった。にもかかわらず、不読者が増え続けていく現実を目のあたりにしながら、抜本的な対策が立てられず、応急処置的な指導の繰り返しのまま時間だけが過ぎていった。不読者の増える原因を考えてみると、読書時間の設定がなく計画的に指導できなかったこともあるが、一番の原因は出会わせ方に工夫が足りなかったように思う。

本を読むということは、基本的には個人的な活動で心の問題だから、他からどんなに強要されても、「あの本を読みたい。」と、心が動かなければ読めない。これまでのような指導では、読まない子や読めない子の心を動かすことは難しい。なぜなら、読まない子や読めない子の多くは、そのおもしろさを知らないのだと思うから。

たった一冊でいい。その子の心にピッタリの本に出会わせてやりたい。自分の心にピッタリの本に巡り会った子は、必ず本を読むようになる。これは自分の体験から得た確信のようなものである。

しかし、このように情報が氾濫している中では、偶然に巡り会うということは考えにくいので、全教育活動を通して、意図的に本と出会わせてやりたい。次に、その方法を挙げてみると、

### (1) ブックトーク

① 意義：ブックトークとは教師や図書館の専門職員などが、児童生徒学生あるいは広く図書館の利用者を対象に、特定のテーマに関するすぐれた図書群を、批評や解説を試みながら順序よく紹介し、それらの図書の利用を促進しようという目的を持って行なう教育活動である。(全国SLAブックトーク委員会 1990年 ブックトーク理論と実践 13-14 全国図書館協議会)

### ② 方法

ア テーマを決める。

イ テーマにあった図書を選ぶ。

- ・紹介する本の2倍くらいの図書を選び、しばって決める。

- ・聞き手の興味の多様性や発達段階を考慮していろいろなジャンルや内容の程度の変化をつけて選ぶ。

ウ 中心にする本を決め、全体の流れや順序を考える。

- ・朗読するところ、引用するところなどはしおりをはさんでおく。

- ・書目リストを用意する。

エ 紹介のしかたや時間に強弱をつけ変化に富んだ紹介になるように工夫する。

オ ブックトークでとりあげた本は、コーナーを作って別置しておく。できれば複数本も用意する。

(小澤雄樹男 1989年 読書活動の組織化とその指導 49 大日本図書株式会社)

### (2) 読み聞かせ

絵本の絵を見せながら読んだり、児童文学や科学読み物などの本を読んだりする。

読み聞かせリストを作る。短い時間なので、主に絵本で、イメージの描きやすい話、楽しい話、季節や行事に関わる話を予定している。

(3) ストーリーテリング

お話を覚えるので、子ども達の顔を見ながらゆったり語ることができる。暖かい雰囲気ができるけれども、覚えなければいけないので簡単にできることではない。しかし、お楽しみ会や始業式のとき等、学期に一度ぐらいはやってみたい。

(4) 集団読書

読書は基本的には個人的な活動であるが、時には同じ本をみんなで読み合い、意見を述べ合うのもいいと思う。大勢の人の考えを聞くことで一人一人の考えが深まっていくし、励ましあって楽しく読書ができるのではないかと考えている。

(5) 読書集会

- ① ペープサートや人形劇などでお話を劇化して、一冊の本をみんなで楽しむ。
- ② 詩集を作り、朝の会や帰りの会に読みあい、学期に一度、詩の朗読会をする。
- ③ 好きな一冊をみんなに紹介する。(これでミニ・ブックリストができる。)

(6) 読書ノート

- ① カード式にして、一枚書きおわるごとに掲示して読みあい、その後ファイルに綴るようにする。(学年末には、その中から選び文集にする。)
- ② 読書ノートというと眉をひそめる子が多いが、本の紹介や習慣化は言うに及ばず考える力を育てるためにも、欠くことのできないものである。形式を工夫して書くことを楽しみにかえてみたい。
- ③ 形式は次の3種類にする。

読書カード。 No. _____		
号	書名	おもしろさ
1		
2		
3		
4		
5		
※ 5冊のうち、ここに読んだ1冊を書きましょう。(絵や文で表す。)		

読書カード。 No. _____	
作者名	書名
	※ 5冊のうち、ここに読んだ1冊を書きましょう。(絵や文で表す。)

### 読書カード③

名前

番号	書名
1	つけもののおもしろ
2	のはらうた
3	これはのみのびこ
4	
5	

※ 読書カード③は①と同じカードだけど、何冊か書名を入れて配る。どんなときに使うかというところ

ア ブックトークの時に。

左の例は、「詩を読もう」のときのカードである。ブックトークに使った3冊は最初から書き込んでいて、あと2冊は自由読書で、自分で選ぶ。

イ 個別指導の時に。

自分で本が選べない子や、読めない子に、その子に合いそうな本を選んで書名を書いてあげる。

ウ 紹介したい本を5冊書き、読みたい子に読んでもらう。

※ ブックトーク資料(例)

テーマ「虫の本を読もう」	
6	・カブトムシ (岸田功・あかね書房・1992年・科学のアルバム)
	・カイコの一生 (佐々木昴・フレーベル館・1983年・かんさつシリーズ)
	・カマキリ (七尾純 七尾企画・偕成社・1974年・カラー自然シリーズ)
	・ぼくらはむしさがしたんていだん (江川多喜雄・童心社・1988年)
	・だれだかわかるかい?むしのかお (今村光彦・福音館書店・1995年)

(7) 書目リストを作る。(ブックトークの後に配る。)

(8) 学級文庫

ア. いつでも本が読めるように、子ども達の手の届くところに本を置く。

イ. いつも同じ本になったり、同じジャンルになったりしないように、本を入れ替える。(市民図書館からひと月に一度テーマに合った本を借り受ける。)

上記の方法をいろいろ組み合わせ、一粒の種をまいて育てていくように、根気強く指導していけば、その子の心に響く本に出会わせてやれるのではないかと思う。



## V 授業実践

### 読書活動指導案

平成7年7月19日(水) 2校時

大謝名小学校3年3組男子18名女子19名

授業者 呉屋悦子

#### 1 主題名 虫の本を読もう

#### 2 主題設定の理由

子どもたちに会うのはこれで3回目になる。先日行ったときには、教室で蚕を飼っていて、半分以上が繭をつくりさなぎになっていた。この後どうするか聞いてみたら、知らないようであった。

この時、虫以外の動物の本を持っていったら、

「昆虫の本はないの」

と聞く子が数名いた。「蚕を育てて昆虫への関心が高まっているな」と感じた。また、一回目の授業で詩をやったら、カマキリがすごく気に入ったみたいで、カマキリの話をする子が多かった。帰りぎわに

「今度は虫の本を探してくるね。」

と言うと、うれしそうな顔をした。

暑くなって、セミやクワガタやカマキリが多く見られるようになり、教室にクワガタを持ってきている子もいた。身の回りには昆虫がいっぱい。子ども達の興味も今が最高だと思う。理科・「チョウをそだてよう」の学習を受け、9月の「こん虫の体をしらべよう」の学習を深めるためにも、ここで科学読み物と出会わせてやりたい。

そこで、物語に偏りがちな子ども達に科学読み物の楽しさを味わわせ、読書の範囲を広げるために本主題を設定した。

#### 3 児童の実態

授業をした2回で感じた事は、子ども達は非常に明るくて屈託のない感じがした。こちらの計画にくいついてくるような感じだった。「詩を読もう」では、楽しくて楽しくてしかたが無いようであった。言葉に対する反応も鋭く、ユーモアを解しているようであった。反面、自由読書になったとき、一人で本が読めず友達2-3名と見ている子がかなりいた。そのためか読書に集中できないようだった。今後の課題である。

アンケートの結果は、読書の好きな子26人、好きでも嫌いでもない子10人、嫌いな子1人である。嫌いな理由は、字ばかりだからということである。好きと答えた子が多いからといって即、本に親しんでいるとはいえないが、そうなる可能性は高いと思う。ジャンルとしては、やはり9類が圧倒的だが、動物の本、図工の本が少数ながら続く。動物の本といっても図鑑等を眺めるといった感じだと思うのだが……。これまでに読んだ絵本調べでは、好きと答えた子があまり読んでいなかったり、嫌いだと答えた子が

たくさん読んでいたりという結果がでている。指導の手がかりになりそうだ。

#### 4 提示する本

- ・かいこの一生 ・虫のすづくり ・だれだかわかるかい? ・アブラゼミ
- ・虫のかくれんぼ ・水べのこん虫

#### 5 本時のねらい

科学読み物に興味や関心を持たせ、読書の領域を広げる。

#### 6 授業仮説

ブックトークで興味や関心を高め、後半、自由読書をさせることにより、科学読み物を読もうとする意欲がでてくるであろう。

#### 7 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
1 知っている虫の話をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にいる虫の話をしてから、セミの話に移っていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セミの脱け殻を準備する。</li> </ul>
2 ブックトークを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アブラゼミが幼虫から羽化するところまでを読む。</li> <li>・ 「だれだかわかるかい?」を紹介する。</li> <li>・ 「虫のかくれんぼ」「虫のすづくり」を読む。</li> <li>・ 「水べの昆虫」でこおい虫を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脱皮するところは蚕と同じであること。</li> <li>・ いろいろな昆虫の顔から名前を当てる。</li> <li>・ クイズふうにして楽しむ。</li> <li>・ 水べの生きものにも目をむけさせる。</li> </ul>
3 読みたい本を選び、自由に読書をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介した本も含めて、準備した虫の本の中から、自由に選んで読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民図書館から36冊、学校の図書室から20冊ほど、借りておく。</li> </ul>

#### 8 評価

科学読み物に興味や関心を持ち、科学読み物を読もうとする意欲をもつことができたか。

## 9 考察

- (1) 子ども達の読書は9類に偏っているが、好奇心の旺盛なこの時期なら、容易に読書の範囲を広げることができるのではないかと考えて、この授業を計画した。手始めに子ども達が興味を持っていそうな虫の話にした。

子ども達は予想以上に虫の事を知っていて話をしたがった。ブックトークに6冊も本を準備したので、紹介に追われて子ども達の話の話を切ってしまった。本の数を減らして、もう少し話を聞いてやればよかったと思っている。この授業では3冊ぐらいが適当ではなかったか？

- (2) 多くの本に出会わせ、読もうとする意欲を高めるために、ブックトークは有効な方法であることを再認識する授業になった。真剣な眼差しで身を乗り出すように聞いている子ども達。こういう光景を目にすると、本を読まない子が増えているという事がウソのように思えてくる。子どもは、本来、本好きなのだと思う。



- (3) あきっぱい子もいるので、提示の方法に工夫が必要である。「だれだかわかるかい？」と「虫のかくれんぼ」は、クイズ風にして、話し合いながら進める予定だったが、スライドが間に合わなかった。やはり、絵本のままでは小さくて見えにくい。絵や写真を見せて考えさせたり話し合ったりする本は、スライドにしようと思う。映像文化の中で育っている子ども達だから、機器を活用して動機づけをし、最終的には本の素晴らしさに気付かせたい。

- (4) 後半の自由読書を観察してみると、集中して読める子は12、3名ぐらい。本を何度もとりかえてパラパラめくる子10名前後。12名はウロウロしている。友達の本を覗き込んだり、めくったりして所在がないようである。この12名のような子達が高学年になって読書嫌いになっていくのかもしれない。

- (5) 自由読書の時は個別指導のチャンスである。ウロウロしている一人一人に本を勧めてみる。

例えば「虫のひげ」という本をいっしょにめくってみて、興味を示したら、「虫のひげにはどんな役目があるか、わかったら教えてね。」と言って席に戻したら一生懸命読んでいた。しかし、本を紹介しても読めない子がいる。こういう子への細かい指導の手立てを考えることが、これからの課題になる。

- (6) 最後の5分間は記録の時間である。読みを深めるためにも、習慣化のためにも必要なことであるが、今回は時間がとれなかった。

ごやせんせい、本をい、ゆいも、てまてお  
りかとう。いっしょうけんぬいよまかんだが  
らくおいってよ。  
本をよんだいえらんだいするときが、おも  
しろがったです。  
ノコギリクワガタの本もたのしか、たです。  
これかづもいっしょうけんぬいよまのたす  
いとしください。  
ぼくは、ありがたうと思いました。



## VI 研究の成果と今後の課題

大切に温め続けてきた事に真正面から取り組めるということは、こんなにも楽しいことかと思いつつ、一日中「読書教育」について、考えたり読んだりする贅沢な日々を過ごさせてもらった。

「本に親しむ子」を育てるために

- 1 1日1回は必ず読書に関わる時間を設定する。
- 2 読書のおもしろさや楽しさを味わわせたり、幅広い読書をさせたりするために、本との出会わせ方を工夫する。
- 3 学級文庫を充実させる。

以上の3点を柱に研究を進めてきた。成果としては、

- 1 年間を通して、毎日、読書活動をする時間を設定することができた。さらに、指導計画を作成したことで、これまでの場当たりの指導を修正することができると思う。
- 2 本と出会わせる工夫を、今までやってきたことを基にまとめた。その中でブックトークについては、文献を調べたり、実践事例を集めたりして、すぐに授業で使えるようにした。検証授業もこの方法を用いた。今の段階では本に興味を持たせるための一番有効な方法であると思う。3回の授業は、子ども達が身を乗り出すように聞いてくれた。
- 3 学級文庫については150冊ぐらい個人用の本がある。これだけでは本が固定しマンネリ化するので、市民図書館の本を利用しようと思う。月に一度50冊ぐらい借りようと思っている。検証授業の時にも利用し、学級文庫を充実させるめどがたった。

大きくまとめると、以上のような事が成果として挙げられるが、その他にも、ブックトーク資料や読み聞かせ資料、読書カード、スライド等、学校に戻ったらすぐに使える資料を作成することができてよかった。

しかしながら、よいことばかりではなく、これから取り組んでいかなければならない課題もいくつかある。その中から、主なものをあげると、

- 1 個別指導をしても読まなかった子をどう指導するか
- 2 読書の習慣化を図るための手立てをどうするか
- 3 家庭にどうはたらきかけるか

などである。読書の環境を整え、本の話をしながらか、子どもの内側から「読みたい」という気持ちが湧くように、あせらずゆったり取り組んでいきたい。

<引用文献・主な参考文献>

菱村幸彦・下村哲夫	「教育法規大辞典」	(株)エムティー出版	1994年
水野寿美子	「読書指導と学級づくり」	あゆみ出版	1989年
菊川治・高岡浩二	「改訂小学校教育課程講座総則」	(株)ぎょうせい	平成元年
東京都世田谷区立駒沢小学校	「読書活動の組織化とその指導」	大日本図書	1989年
文部省	「読書活動とその指導」	大日本図書	平成6年

